

副読本“Chemical Secret”の魅力

川 貞夫

Chemical Secret の魅力 — 生徒の感想から

生徒には英語をたくさん読ませたいと思っているが、頭の痛いことの1つは、これらと思う副読本がなかなか見つからないことである。楽しんで読んでもらえる本を見出すことが難しい中で、自分が担当した学年には必ず読ませるように、また人にも勧められている本がある。それは Tim Vicary の *Chemical Secret* である。数研 OXFORD セレクション・Bookworms シリーズの Stage 3 として数研出版から提供されている。

このサスペンスでは、化学会社に再就職した初老の化学者ジョン・ダンカンが主人公である。ジョンは、その会社が環境汚染の実態を隠していたために、企業倫理とヒューマンズムの間で悩む。悩んだ末に彼がとった選択が引き起こす悲劇がスリリングに描かれている。

生徒たちは次のような感想を記している。

「とても面白かった。続きが気になってすぐに読んでしまった。ジョンの家族にはみんな幸せになってほしかったから、ちょっと残念だった。」「展開が面白かった。単語もそれほど難しくなく楽しく読めた。」「環境問題についていろいろ考えさせられた。この話の続きが気になる。」

話に引き込まれて読んだ様子がうかがえる。さらに、環境問題、倫理、家族愛が主題として取り上げられていることにも生徒は心を動かされている。

「ジョンは利用されているような気がして悲しい人生だと思った。自分をもっと自分の意志を通せるような人生を送りたい。」「環境問題について考えさせられる作品だった。川に有害な水を排出しているとわかっていながらそれを隠したり、娘がその水を飲んでしまったりと、とても素晴らしい構成で深く入り込める作品だった。また登場人物の心情の変化もしみじみと伝わってきた。またこういった作品を読みたい。」「ジョンは年をとって働くことができなかったが、仕事をもらい裕福な生活を送る話だ

と最初は予想した。しかし読んでいくうちに自分の想像とは反対の方向に進んでいくのに気づき衝撃を受けた。この話は予想がつかない話で、読みが良かった。」「これを読んで改めて環境問題を意識した。このストーリーは読んでわくわくドキドキする展開が繰り返されていて、とても面白かった。ジョンは裕福な生活を送っていたが、妻の死後貧しくなってしまった。しかし、新しい職を見つけ、また裕福になってきたが、その会社のせいで水質汚染が起こり大変な問題になってゆく。その中で人間関係、それぞれの心境が様々な場面で描かれ、心に残るストーリーだった。続きが読みたい。」

Tim Vicary について

著者の Tim Vicary は 1949 年にロンドンに生まれ、ケンブリッジ大学で学んでいる。教師を経て、作家となった。大人向けの著書だけでなく、英語学習者向けの読み物を多く著している。オックスフォード大学出版局の Bookworms シリーズでは、*The Elephant Man* (Stage 1) と *Skyjack!* (Stage 3) も Tim Vicary によるものである。

現在は、ヨーク大学 Norwegian Study Centre で Director of Studies を務めている。同センターの自身の紹介ページによれば、主に今日の英国に関して、政治・教育・犯罪・テロの問題、米国との関係・報道の役割について教えている。ヨーク近郊に住んでおり、妻と 2 人の成人した娘があり、健康のためにランニングと乗馬をしている。執筆活動については、外国語として英語を学ぶ生徒向けの本をオックスフォード大学出版局から多数出版し、その中の 1 冊である *Titanic* によって Extended Reading Foundation at the University of Hawaii から賞を贈られたことが記されている。¹⁾

また、自身のホームページをもち、自身の著作を Thrillers, True stories, Crime novels, Historical に分けて紹介している。*Chemical*

Secret は Thrillers に分類されており、この本に対する著者の思いが、次のように述べられている。

This is a story about the environment. Today, everybody talks about the environment.... But you know, when I first wrote this story, it nearly wasn't published at all. 'The environment is boring,' some people said. 'Nobody wants to read about that.' Well, they were wrong. This is one of the most popular stories I've written. Lots of people have read it.²⁾

音声 CD の魅力

忘れてならないことは、本文を朗読した音声 CD の魅力である。朗読はイギリスの俳優・声優として常に第一線で活躍している Charles Collingwood (1943 ~) によるものである。Collingwood は様々なテレビ番組に出演しているばかりでなく、BBC Radio 4 の長寿番組 The Archers の Brian Aldridge 役としてイギリスでは広く知られている。Collingwood の朗読は、英語学習者向けにゆっくりと読んでいながらもかかわらず、緩急自在に聴取者を物語に引き込んでゆく。授業中に生徒と一緒に一話ずつ聞いたが、生徒たちはページを繰りながら、一心に耳を傾けていた。何人かの生徒からは CD を借りたいと申し出があった。生徒の感想を記したい。「読み手の人の声が、話に引き込まれるようにすばらしかった。一話が終わるごとに、続きがとても気になった。この話の続きが聞きたい。」

ワークブックの必要性

このシリーズでは、巻末に Glossary として英文による単語の説明と、Before Reading, While Reading, After Reading の Activities がついている。Activities は理解の助けとなるものであるが、自学自習用として使うことは困難である。生徒に使いやすいように加工する必要がある。自分の授業では、After Reading の一部をプリントにして、授業で英問英答をし、読者の想像にゆだねられている結末を書く問題を宿題とした。

しかし、これらだけでは生徒たちに本文を読解させるのは難しいため、数研 OXFORD セレクション付属の日本語のワークブックを活用した。ワーク

ブックは、各章の読解問題(語句の意味、内容理解問題など)、語句解説、レポート課題で構成されている。ワークブックに取り組むことで、生徒たちは各章を正確に理解しながら読み進むことができる。

出版社に望むこと

副読本では、古典をやさしく書き直したものや、伝記などが多くを占めている。それらにも評価が高く長く読み継がれているものがあり、自分も利用しているが、現代の問題をサスペンスとして読むことで、生徒は英語での読書に強烈に引き込まれる。

Tim Vicary のサスペンス作品としては、ほかに、ハイジャックを主題とした *Skyjack!* (Stage 3)、テロを扱った *Justice* (Stage 3)、薬物問題を取り上げた *White Death* (Stage 1) が Oxford Bookworms Library から発売されている。また、他の著者による英語学習者向けのサスペンスも多数出版されている。生徒たちが読むのにふさわしいものが、手に取りやすい形で提供されることを望む。

副読本の効用

副読本を読んですぐに成績が上がるわけではない。しかし、英語での読書体験は生徒の英語力を、深い所で下支えしてくれるものである。また生徒の感想からもうかがえるように、1冊の英語の本を読み終えた充実感は何物にも代えがたい。英語学習の強い動機づけとなるものである。

教師として、また英語で本を読むことを楽しむ者の1人として、生徒たちをわくわくさせるような副読本とのさらなる出会いを心待ちにしている。

参照など

- 1) ヨーク大学 Norwegian Study Centre の URL:http://www.york.ac.uk/inst/nsc/staff.htm#Tim_Vicary_
- 2) Tim Vicary のオフィシャルサイトの URL:
<http://www.timvicary.com/>

<参考>

Bookworms シリーズのようなレベル別を選べる副読本については「多聴多読マガジン」(コスモピア株式会社)が毎月詳しく扱っている。